



岐阜県  
関市

21-205-A001



35°29'27.2"N  
136°54'43.6"E



388-51-7-1

## デザインの由来



設置開始 1992年



小瀬鶉飼



刀鍛冶

関市伝統の「刀鍛冶」と「小瀬の鶉」を中心に描いたマンホール蓋です。関の鍛冶の歴史は鎌倉時代に端を発し、室町時代の刀匠「孫六兼元(関の孫六)」の登場により「折れず、曲がらず、よく切れる」日本刀の生産地としてその名を広めました。「刃物のまち」関はその伝統技術によって支えられています。また刀匠と時を同じくして、小瀬鶉飼も活躍しています。代々守り続けたその技法は岐阜県指定無形民俗文化財に登録され、宮内庁式部職職匠として御用を続けています。暗闇の舞台上で篝火のみを頼りに手縄を操る鶉匠と鮎を捕らえる鶉達の姿は圧巻でリピーターが数多く訪れます。

1808-00-001

関市役所下水道課

©GKP

